

みんなにやさしい、特別支援教育（2）

◆指示を的確に

G小学校で通級指導教室の指導をされているN先生が、本校に来られた時、「S先生は指示が的確で子どもたちもしっかりと聞いていますね。」と話されていました。

教室を訪ねてみると、朝の会の最中で、今日一日の学習のことや今後の学習で必要とする準備物の確認をされていました。

その都度、子どもたちは手を挙げたりしながら確認をしていました。また、確認ができない子には、先生が具体例をあげながら説明をされていました。

子ども達に対して指示をしたり励ましたりと「声かけ」は支援の基本的な手だてです。しかしながら、どのように声をかければ効果的なのでしょうか。「褒める」「肯定的に」ともいわれますが、具体的にはなかなか難しいものです。

例えば、10分ほどで集中がとぎれる子どもに対しての声かけは、どうされているのでしょうか。



集中がとぎれたときに

- ①がんばったことを褒める「よくがんばったね。また、がんばろう」
- ②集中するように促す「手悪さしないで、こっちを向いてね」
- ③叱る「こら！手悪さしないで、こっちを向きなさい」

集中がとぎれる少し前に

- ④集中して取り組んでいることを褒める「よくがんばっているね」

この4つの声かけの意図は、どれも集中を促そうとするものです。しかし、受け止める側の気持ちには大きな違いがあります。子どもたちがうれしく、やる気が一番起きるのは、④なのは言うまでもないでしょう。

子どもたちに支援を行う状況は千差万別です。どのような声かけが良いか一概には決められません。しかし、同じ状況であっても、声かけのあり方によってその後の様子は異なります。場当たりの声かけではなく、意図と計画性のある声かけを心がけたいものです。